

放課後等デイサービス 事業所による自己評価結果（公表）

公表： 2019年3月25日

事業所名： こらいず たかす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			比較的ゆとりのあるスペースと判断しています。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			現在、常勤4人、非常勤1人で運営しており、十分とは言えなくともおおむね適切と判断しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			段差に対して可動式のスロープを設置し、車いす使用者にも対応しています。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○		開設1年目で、計画的な業務運営になっているとはいえません。次年度以降は計画的に業務を進めていきたいと思えます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			「保護向け事業所評価」は今回初めて実施しました。保護者様のご意見・ご指摘を受け止めて事業所の運営に当たります。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			30年度中にそれぞれの結果をまとめ、ホームページに公開するほか、保護者様に対して紙面で通知します。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	外部評価を依頼する相手先がないため実施していません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			日常的にOJT（オンザジョブトレーニング：支援実施中の指導）を行うようにしているほか、市内の研修会や施設見学に参加しています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			行動観察や保護者様からの聞き取りのほか、発達指標や感覚特性、社会適応力を把握するための標準化された検査を用いて課題を分析し計画を立てるようにしています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			感覚処理能力：「日本版感覚プロファイル」 視覚認知力：「WAVES」 社会適応性：「旭出式社会適応スキル検査」 他
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			担当者が作成した計画書を職員で確認して立案するようにしています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			開設して間もないので、固定化という設問はそぐいませんが、注意していきます。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○	昨年夏休みは利用人数が少なかったため、洗濯やバス利用練習など時間を費やした特別な課題を設定して実施しました。しかし、利用者が増えた冬休みは、十分な時間の確保が困難なことから、特別なプログラムは実施しませんでした。次年度以降も長期休暇の特別プログラムは難しいと考えてます。ただし、概ね60分で終わるプログラムについては検討していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	個別支援を事業所の特徴として運営しているため、集団活動での支援提供は限局的になっています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援開始前のスタッフミーティングは30分の時間を用意し、その中で実施しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援内容やお子さんの様子は随時職員間で共有するようにしていますが、就業時間ぎりぎりまでサービス提供することがあるため、終了後に振り返りをする時間が十分に確保できないことがあります。不足分については、翌日の始業前のスタッフミーティング等で行うようにしています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		支援の実施内容、実施結果、お子さんの反応等について記載し、次回以降の支援に反映させるようにしています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		平成31年1月以降、1回目のモニタリングが始まり、6か月前との変化点について確認しています。必要なお子さんについては、発達検査を再検査し、客観的に評価するようにしています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	○		ガイドラインに示される「基本活動」のうち、「ア. 自立支援と日常生活の充実のための活動」「イ. 創作活動」は取り入れるようにしています。「ウ. 地域交流の機会の提供」「エ. 余暇の提供」は個別支援中心で一人ひとりの利用時間が短いことから実施は限定的になっています。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		担当者会議には、所長または児童発達支援管理責任者が出席しています。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか		○	鷹栖町内のお子さんについては、スクールカレンダー等や保護者様からの連絡で確認しています。把握漏れのないよう、更に対策を検討します。 自主通園しているお子さんについては、保護者様から情報を得ています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	-	-	-

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	保護者様の依頼・同意があれば、面談や文書等で情報共有をしています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	設問に該当するお子さんは現在いません。今後、そのようなことがあれば、情報共有していきたいと考えます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		障害者支援センター「きたのまち」の担当職員やスクールコーディネーターの先生と連携する機会を得られました。他の発達支援事業所とはまだ見学させていただいた程度なので、今後、交流・連携を図っていきたいと思えます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		放課後児童クラブの職員と面識があり、行事・イベントなどに参加させていただいています。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○		鷹栖町コーディネーショントレーニング実践研究委員会役員に推薦していただき、会議等に参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		自主通園している保護者様には、できるだけ療育場面を見ていただき、発達状況や課題について説明しています。来所する機会の少ない保護者様に対しても利用料支払い等で来所された際にできるだけお話する機会を設けています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		ペアトレのような継続的で体系化されたプログラムは実施できていませんが、ペアトレの基本理論である行動療法の観点から、子どもの行動の理解や対応方法を保護者様に説明しています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		利用開始、契約の際には説明を行い、運営規定等はいつでも見れるように応接スペースに掲示しています。わかりにくい内容もあるので、必要の都度説明していきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		発達に関する知見を持ち、子どもの発達特性や親の心理を理解した上で接することができるよう心掛けています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		父母の会等の組織がなく、今のところ、保護者様同士の連携を積極的に勧めてはいません。今後、保護者様のご意見を伺いながら検討します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		迅速に対応できるようにしています。苦情については、直接職員に言いにくいことを踏まえ、第三者委員を委嘱して相談できるようにしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		発行しているが回数は少なく不定期になっています。概ね月1回程度、定期的に発行できるようにしていきます。

	35	個人情報に十分注意しているか	○		職員への周知徹底、個人記録保管庫の施錠など、注意を払っています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子どもの障がい特性や親の心理を理解して接することができるよう心掛けています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		事業所オープンの際、内覧会として地域住民にも開放しました。個人情報の観点から、いつでも誰でもとはなりません。スポーツ少年団の会合など、依頼があれば場所を提供していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		感染対策として、来所時に手洗いを励行し、利用者が使用する教材、おもちゃ、ドアノブなどの除菌消毒は毎日実施するようにしています。保護者様へもできるだけ周知していくようにします。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		今年度、地震想定避難訓練を1回実施しました。また、鷹栖町消防局によるASD研修にも参加しました。今後も定期的に避難訓練は実施していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止自体を目的にした研修は実施していません。 発達障がい児への虐待は、子どもの発達特性や発達段階を大人が理解できず、適切に対応できないことが大きな起因と考えていますので、職員に対してこれらの知識、ノウハウを教育していくことで、虐待を未然に防いでいきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		現在該当者がいません。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーの有無については利用開始時に保護者様に確認していますが、医師の指示書の有無までは確認はしていません。 おやつ、飲み物を提供することがあるので、アレルギーのある子どもについては医師の指示書があるかどうか保護者に確認します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハット事例については、些細なことでも報告するように徹底し、事故発生防止に向けて検討するようにしています。